

第3回 岡谷市史編さん委員会 【会議録】

【日時】 令和7年12月11日（木）16時00分～17時30分

【場所】 イルフプラザ3階カルチャーセンター青少年活動室

【出席者】（委員） 小口明則委員長、草間吉幸副委員長、小松茂委員、高木千奈美委員、
浜田恵美子委員、林幸夫委員、宮坂春夫委員、大石順子委員、小口隆秀委員
（事務局：岡谷市史編さん室） 三澤達也室長、秋山仁志主幹、藤森栄太主査、
小池秀昭主査、小林博専門職員、櫻井洋専門職員

【次第】

- 1 開会（小口委員長） 2 あいさつ（三澤室長） 3 議事（議長 小口委員長）
 - (1) 岡谷市史編さん業務委託公募型企画提案（プロポーザル）の実施について
 - (2) その他
 - ① 飛騨市視察研修報告
 - ② 榎垣外遺跡に関する取り組みについて
- 4 その他（事務連絡） 5 閉会（草間副委員長）

【議事の経過及び発言の要旨】

- (1) 岡谷市史編さん業務委託公募型企画提案（プロポーザル）の実施について
事務局より、参加要件や評価方法、スケジュール等について資料に基づき説明した。

（質疑等）

委員長 適度な数の業者が応募してほしいと思う。

そのほか委員からの質疑等なし。

- (2) その他

① 飛騨市視察研修報告

6月27日に市史編さん室が行った飛騨市への視察研修と、それを契機にした高山市の中学校での社会科授業「飛騨の工女たちと岡谷の製糸業」の参観について、事務局より報告した。

（質疑等）

委員長 私が市に在職時代、沖縄から元工女7～8人が来岡した際に、「岡谷ではいい生活ができて感謝しかない」という話をされていた。映画と実際とは違うということについては、どこまで行っても議論は平行線。

山本茂実さんの取材した録音テープを元に、蚕糸博物館で紀要に活用しているが、紀要を手取る機会が少ないために伝わりにくい面がある。一方で、飛騨市では市長が先頭に組み組んでおられることはありがたい。

新しい市史の中で生かされるのか十分議論してみればいいかなと思う。

② 榎垣外遺跡に関する取り組みについて

既刊市史発刊以降、榎垣外遺跡が古代諏訪の都であったことが判明したことから、それに関する一般財団法人大昔調査会による小冊子の発行や講演会、地元ケーブルテレビでの放映、岡谷美術考古館での企画展示などの取り組みについて事務局からの報告と、同遺跡についての解

説を行った。

また、現在行っている上向遺跡の発掘調査についての案内をした。

(質疑等)

委員長 奈良で作られた緑釉陶器が出てきたということはどういうことか。

事務局 緑釉陶器は奈良(中央)でしか作られていなかった。中央から派遣された役人が持っていたことを表している。

委員 製糸と榎垣外がつながるといふ発想がある。この地に官衙ができたのは、何もない土地だったから都をつくり易かったというもの。生産力がなく人もいなかったが、都をつくったことで人も増え、一生懸命働いて農業からやがて製糸業へと発展していった。

委員 当時の人口はどの程度だったか。

事務局 諏訪郡全体でおよそ1万5千人とパンフレット(P.5)に記載がある。

その他事務連絡

- ・次回日程：3月27日(金)午後3時から 岡谷市役所602会議室
- ・シルキーチャンネル「岡谷の歴史と現在からお岡谷の未来を展望しよう」案内
- ・岡谷市LINE公式アカウントの案内(市史編さん室だよりの発行をタイムリーに受信可能)